

時	2/15 金	2/16 土	2/17 日
8		7:30 朝食	7:30 朝食
9		安全管理者研修	9:00 分科会-I
10		9:00 ・自然体験活動における安全管理-1 *主にNEALコーディネーターを対象	10:30 ⑥・⑦・⑧・⑨
11		12:00 ・自然体験活動における安全管理-2 *主にNEALインストラクターを対象	10:30 全体会③
12		12:00 昼食	12:00 「自然体験活動のこれから」
13		12:30 第二部受付	12:00 まとめ・閉会式
14		第二部 13:00 開会式	12:30 解散
15	14:30 第一部受付	13:20 全体会①	
16	第一部 自然体験活動 上級指導者研修 15:00 *主にCONEトレーナー、 NEAL主任講師を対象	15:00 分科会-I おやつが用意されていますよ!	
17	17:00 夕食	17:00 ①・②・③・④・⑤	
18	18:00 保険と事故事例研究	17:00 全体会②	
19	19:30 *主にCONE包括保険加入者を対象	18:30 「自然体験活動と災害支援」	
20	20:00 情報交換会（任意）	18:30 休憩・入浴	
		19:30 夕食・情報交換会	



平成30年度 子どもゆめ基金助成活動
全国自然体験活動指導者集会 **全国キャラバン**

自然体験活動フォーラム in 大雪

自然体験活動は次世代へ

自然体験活動と ソーシャルバリュー

平成29年度に引き続き、全国の国立青少年教育施設を会場に自然体験活動指導者（NEAL）をはじめ、アウトドア大好き人間や教育関係者、学生から社会人まで幅広い参加者を対象に「自然体験活動フォーラム」を開催します。

昨年度は「自然体験活動とアクティブラーニング」をサブテーマとしましたが、今年度は「自然体験活動の社会的価値とは何か、どのように高めるか」という視点で自然体験活動の普及促進へ向けてのディスカッション、SDGs や発達障害等をテーマとする分科会と共に、各地域における課題解決の場でもあります。

また、第一部では第二部のフォーラムに先立ち、様々な指導者研修講座が開設されますので、併せてご参加ください。

●と き：平成31年 **2/15 金・16 土・17 日** **参加定員：100名**

第一部 15 金 15:00～16 土 12:00 / **第二部** 16 土 13:00～17 日 12:30

●ところ：**国立大雪青少年交流の家**

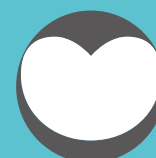
〒071-0235 北海道上川郡美瑛町白金温泉

●対 象：自然体験活動に興味ある人は、どなたでも。NEAL 指導者大歓迎！

●参加費：**第一部** 各講座、別途参加費が必要です。

第二部 2/16・17 に参加 **4,000 円**（学生 **3,500 円**）
1 日のみ参加 **3,000 円**

※別途、夕食・情報交換会費 3,000 円、朝食・茶菓子代 500 円が必要です。



主催：NPO 法人 自然体験活動推進協議会（CONE）

Council for Outdoor & Nature Experiences

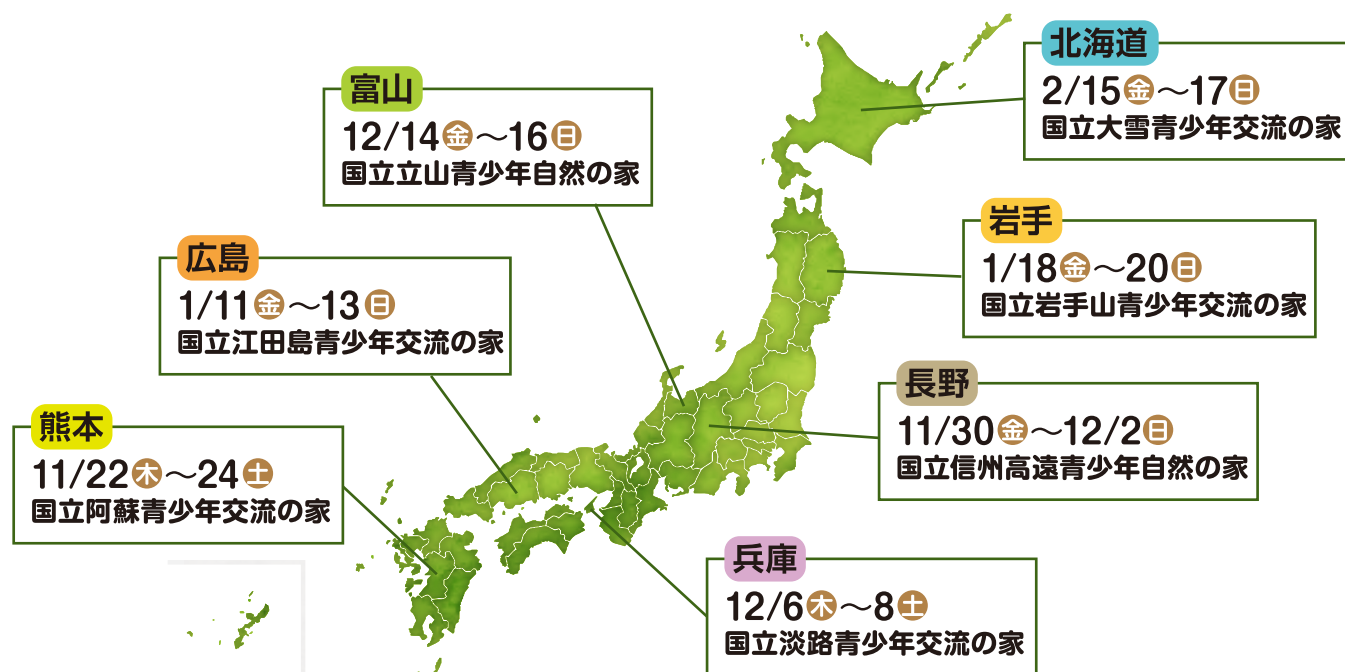
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内

TEL 03-6407-8240 **FAX** 03-6407-8241 **E-mail** info@cone.jp 問い合わせ時間：月～金曜日 10:00～17:00

お申し込みは
こちらから



平成30年度全国自然体験活動指導者集会 全国キャラバン開催会場情報



ラップアップフォーラム 平成31年 3/15 金～16 土 国立オリンピック記念青少年総合センター

全国キャラバンの参加者やスタッフ、会場施設職員を対象に開催する1年間を集大成するフォーラムです。是非、ご参加ください。

第一部

自然体験活動指導者研修

2/15 金 15:00～19:30 | 2/16 土 9:00～12:00

自然体験活動に様々な立場で関わる指導者に対して実施する専門研修です。
また、CONE トレーナーや NEAL 主任講師、NEAL コーディネーター、NEAL インストラクター等の登録更新が可能です。

自然体験活動上級指導者研修 2/15 金 15:00～17:00

*主にCONEトレーナー、NEAL主任講師を対象 講師 森 美文 (森環境教育事務所)

保険と事故事例研究 2/15 金 18:00～19:30

*主にCONE包括保険加入者を対象 講師 町頭 隆児 (オフィステラ)

安全管理者研修 2/16 土 9:00～12:00

- ・自然体験活動における安全管理ー1
*主にNEAL コーディネーターを対象 講師 北川 健司 (川に学ぶ体験活動協議会理事)
- ・自然体験活動における安全管理ー2
*主にNEAL インストラクターを対象 講師 佐藤 繁一 (国際自然大学校事務局長)



第二部

全体会① 自然体験活動とソーシャルバリュー

2/16 土 13:20～15:00



教育としての「自然体験活動」は、ここ20年ほど全国各地で取り組みられ、主催者と参加者間における活動評価は確実に高まり「自然体験活動」の普及に寄与できたことは事実です。しかしながら、当事者間でない第三者による「自然体験活動」への高い評価は得られているのでしょうか。そこで、北海道の地域性や人的資源、農業はもとより酪農や林業・農業・牧場・森林等を利活用した取り組みを通して「自然体験活動が社会に及ぼす影響や意義」について語り合います。

コーディネーター

宮本 英樹氏
(流山牧場・パドミュゼ代表)

「懐かしい未来」をコンセプトに「暮らし・農耕・自然体験」の次世代型牧場を経営。地域づくりや人材育成、企業内保育園経営など多彩な事業を展開する。

パネリスト

井田 芙美子氏
(いただきますカンパニー代表)
元自然ガイドの経験から、農業の現場を紹介する「畑ガイド」という分野を開拓し十勝農業を観光資源として案内している。

瀧澤 紫織氏
(江別すすらん病院精神科医師)
認知症や精神疾患の患者さんへ精神科医として「森林療法」を提唱すると共に、地域の自然活動団体と協働して実践活動を展開する。

佐藤 初雄氏
(国際自然大学校理事長)
30年前に「自然体験で飯を食う」ことに挑戦したレジェンドで、全国の子どもの教育施設の指定管理を多数受け社会に貢献している。

全体会② 自然体験活動と災害支援

2/16 土 17:00～18:30

日本列島だけでなく世界的規模で、集中豪雨や大地震、火山噴火などによる大規模災害が発生し続けています。北海道では、胆振東部地震を起因とする「ブラックアウト」が全道に発生し、日常生活の脆弱性が露見されました。そこで、災害に見舞われた現場において「自然体験活動ができことは何か」、実践報告を基に考えたいと思います。



コーディネーター 上田 融氏 (いぶり自然学校代表)
旧ねおすの一員として、登別フォレスト鉱山の立ち上げ、2016いぶり自然学校を創設、幼児向け自然体験活動はライフワークとしている。胆振東部地震被災地では子どもの支援活動に率先して取り組んだ。

全体会③ 自然体験活動のこれから

2/17 日 10:30～12:00

昨年度の「自然体験活動とアクティブラーニング」に加え「自然体験活動とソーシャルバリュー」という横断的な観点で構成された全体会や分科会で得た様々な情報から、参加者自身が今後に向けてのアクションプランを作り上げます。



コーディネーター 荒井 一洋氏 (大雪山自然学校代表)
ニュージーランドで大学を、北海道大学で大学院を卒業し、2000年より「ねおす」に参画。大雪山自然学校設立後は、インタープリテーションやエコツアー、子どもの自然体験活動に取り組んでいる。

分科会Ⅰ 2/16 土 15:00～17:00

分科会① 森のようちえんのリスクマネジメント

森のようちえん活動は子育て支援・地域活動としてまた既存幼稚園においてもその教育的価値に注目が集まっていますが、活動のリスクマネジメントとしては、幼児の特性からみた知見はまだまだ乏しい状況ではないでしょうか。幼児活動のリスクマネジメントについて提議します。



講師 田中 住幸氏 (飯田女子短期大学准教授)
あそベンチャースクールを創設し、自然体験活動を実践するかたわら北海道教育大学大学院で環境教育学・自然体験教育学を学び、特に幼児自然体験活動の指導者養成を専門に活躍中。

分科会② あなたにも作れる! SDGsの学びの場

SDGsは、2030年までの達成を目指すまさに喫緊の課題です。しかし、依然として内容の理解にもなかなか手が届いていない状況が見受けられます。この分科会では、内容を十分理解できなくてもSDGsの内容の理解を深められるワークショップ運営のあり方を考えます。



講師 能條 歩氏
(北海道教育大学岩見沢校教授・CONEトレーナー・リスクマネジャー)
大学ではアウトドア・ライフコースの環境教育学研究室を担当。人と自然をつなぐための自然体験教育と災害教育などを行なっている。

分科会③ パッケージドプログラムの極意

プロジェクトワイルド、PLT、GEMSなどのパッケージされた活動は数多く紹介されていますが、それらをどのような場面でどのように進行して使うかは進行する人の力量にも関わります。各活動の養成研修は開催されていますが、初心者にはその魅力を、経験者にはそのファシリテーションのエキスを感じてもらいます。



講師 二杉 寿志氏 (おたる自然の村公社指導課長)
自然体験宿泊施設「おこばち山荘」で、小・中学校の宿泊研修や、PTA、団体の行事などでプログラム提供をするかたわら、学校などへの出張講座や、幼稚園では年間的な環境教育プログラムを実施し、自然や環境の事を子供たちと体験している。

分科会④ 自然体験活動と発達障害

発達障害の歴史や学校教育における発達障害対応の現状を探ります。自然体験活動における発達障害対応についても具体例を基に理解を深めます。



講師 安藤 正紀氏 (玉川大学教職大学院教授)
神奈川県内の養護学校教員や教育主事経験を持ち、長く特別支援教育に携わる。また、ボーイスカウト指導者として「障害児スカウト」の指導や教育プログラムの開発にも長年携わる。

分科会⑤ エコビレッジという暮らしと学びの場

「エコビレッジって何?」…、自然の中で仕事と暮らしを成り立たせるのは容易なことではありません。そこに「暮らし方も学ぶ」という要素をいれた、次世代への暮らし方を実践的に学ぶ場がエコビレッジです。内外のエコビレッジを視察体験して日本で実践する余市エコビレッジとその活動を紹介します。



講師 坂本 純科氏
(北海道エコビレッジ推進プロジェクト理事長)
91年北大農学部卒業後、札幌市役所で公園や緑地の計画に携わる。04年退職。ヨーロッパ各地のエコビレッジを訪問して、自給的なコミュニティの社会的価値に感銘を受ける。09年にエコビレッジライフ体験塾設立、12年から余市に拠点を移して今に至る。

分科会Ⅱ 2/17 日 9:00～10:30

分科会⑥ 自然体験と学校教科の成績相関

教育指導要領においても自然体験活動を推奨する方向性がうたわられるようになりましたが、はたして体験活動は教科学習の成績にも影響があるのかという観点からの研究が行われています。その現場となった阿寒前田一歩園と研究成果を報告し、これからの課題を探ります。



講師 山本 光一氏 (前田一歩園財団自然普及課長)
1997年に阿寒の自然に魅せられ阿寒湖畔に移住。阿寒湖周辺の森林づくり・北海道の自然環境保全に力を注ぐ(一財)前田一歩園財団に勤務。森の保全、環境教育やガイドなど幅広く担当。公私を通じて阿寒の自然と向き合い、その貴重な一瞬をカメラに納めることをライフワークとしている。

分科会⑦ 森の癒しと医療(森林療法)

従来、森林療法は内科医の範疇として自然体験活動に関係していましたが、最近では子どもの「デジタルデタックス」や「不登校児童」などへの合理的配慮が求められていることから、ここでは、精神科医として取り組む自然の保つ「癒し」や「療法」についての実践例を紹介します。



講師 瀧澤 紫織氏
(江別すすらん病院精神科医師)
認知症や精神疾患の患者さんへ精神科医として「森林療法」を提唱すると共に、地域の自然活動団体と協働して実践活動を展開する。

分科会⑧ 畑のインタープリテーション

北海道には広大な農業・酪農地帯が広がっています。しかし、訪れる人々は風景として眺めてはいますが、そこで行われている生業を訪れる人々は知りません。自然体験のガイド手法は「見えないものを見せる・見えるものを気づかせる」が基本、それを応用した畑のガイド・インタープリテーションについて報告します。



講師 井田 芙美子氏
(いただきますカンパニー代表)
然別ネイチャーセンターや道立宿泊体験施設において自然体験活動の手法を実践的に学び、それらを応用して北海道の農業を紹介する「畑ガイド」を事業化した。そのノウハウが注目を浴び、全国各地で講演やガイド養成講座を行っている。

分科会⑨ 自然学校で飯が食えるか?

北海道には観光分野でガイドを職業にした会社や個人が数多い。一方、社会教育や地域活動を網羅する民間の自然学校はまだ少ない。そこで、自然学校が「職業」として成立するためのポイントや課題について考えます。



講師 鈴木 宏紀氏
(自然考房 Nature Designing 代表)
2015年4月、関東の自然学校から縁あって日高の国立施設へ。3年の勤務を経て2018に独立起業。地域の人材や自然資源を活かしたコミュニティビジネスや地域活性化事業に取り組んでいる。

夕食・情報交換会 2/16 土 19:30～

～はなそう、きこう、つながろう～
皆さまからの特産品の紹介大歓迎!

